

# 無生物主語①

## 自然環境

---

無生物主語が可能な「つくる」

①自然環境が動きの中でなにかを形成する場合（配置関係を表す他動詞は無生物主語を取りうるという一般原則による）

「二つの気圧の谷が不連続線をつくる」

「激しい渦をつくって流れる水」

「川がつくった平塚の大地」

「信濃川がつくった越後平野」

## 無生物主語②

### モノがヒトをつくる

---

②人格形成を表す「[環境]がヒト/人間をつくる」の文型である場合に可能になる。これは対句によるレトリックの効果(antithesis/転倒彩)によって無生物主語が可能になったものと考えられる。

「人がまちをつくり、**まちが人をつくる。**」

→対句が定着した後、後半部分の無生物主語の文が独立して用いられるようになり、対句の前半部分が成り立たないような場合にも拡張された。



## 主語：地位、役職、立場

---

「地位がひとをつくったというか、  
そんな印象がありますし」

「役職が「ひと」をつくっていきます。」

「ポストがひとをつくるともいう。」

「立場がひとをつくる。」



# 主語：時期・歴史

---

「輝いているあのひとをつくったのは、  
この時期でした」

「各地域の歩んできた歴史が、それぞれの今の  
“まち・ひと”をつくっていると日々実感。」



## 主語：感情

---

「**憧れ**や毎日の習慣がひとをつくっていく」

「**憎しみ**が人間(ひと)をつくっている」

「『**涙**はひとをつくる』のよ」

「**愛**はひとをつくる ひと**は**愛を感ずる」

## 主語：環境、暮らし、過ごした日々

---

「環境がひとをつくる」と、云われてるような感じで」

「テーマは『暮らしがひとをつくる』」

「たいていわたしが寝ているか、ぼんやり揺れていたりするのでゆっくり話をしたことは、無かったんですが過ごした日々がそのひとをつくるね」

# 主語：人間関係・対人関係

---

「まちづくりはひとづくり、ひとをつくるのはひとひととのつながりです」

「そういう人間関係がひとをつくるのです」

「発する言葉がひとをつくる」

「ひとをつくるのは教育」である」

「行儀作法が人を作る」

「環境は人間をつくる。環境はひとをつくる」

「言葉は人間をつくる」

「人間をつくる修行」

# その他:「ひとをつくる」の実例

---

「『服がひとをつくる』のである。

「住宅は感性豊かなひとをつくり、環境と共生するひとをつくり育てる」

「その地域は地域独自の輝きを生み、それを守るひとをつくります」

「建物がまち並みをつくったり、建物がひとをつくったりもします」

「住まいは人間(ひと)をつくる」

「暮らしがひとをつくる」

「彼は自然がどうして惜し気もなくこの地上にこんな傑作(美しいひと)をつくって、そしてそれを老いさせてしまうかわからない気がした。」  
(武者小路実篤『友情』)